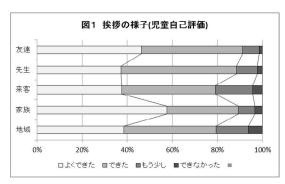
## 1 思いやりの心をもち、進んであいさつできる児童の育成

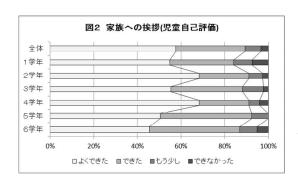
### (1) 挨拶 【児童のアンケート結果から】



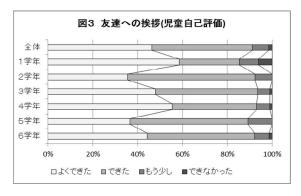
児童の自己評価では、「よくできた」「できた」と 回答した割合が、友達・先生・家族に対しては9割近 く、来客や地域の方に対しては8割に達しています。 ご家庭での声掛けに感謝いたします。 (図1)

学校では、2学年合同で行うおはようデーや民生委員児童委員の方々と一緒に行うあいさつ運動などを通して、児童の意識を高めてきました。児童の意識の中に定着するまでまだまだですが、方法等を工夫しなが

ら続けていきたいと考えています。地域からの声で、「よくあいさつを返してくれる。」という声と「最近はさっぱりあいさつがない。」という声と両方聞かれます。せめて、知っている方やお世話になっている方へは、元気よくあいさつができるように指導していきたいと思います。

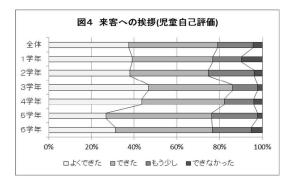


家族に対する挨拶は、高学年になると自己評価が低くなる傾向が見られます。高学年は、恥ずかしさを感じる児童が増える学年ではありますが、あいさつはコミュニケーションの基本ですので、当たり前のこととして定着させるためにも、これからもお声掛けをお願いいたします。 (図2)



昨年同様の傾向ですが、「友達への挨拶」は、学年によって「よくできた」と回答する児童の割合にばらつきがありました。挨拶がよく交わされるということは、人間関係が深まっているとも言えますので、各学年の実態を踏まえながら今後も指導していきます。

(図3)



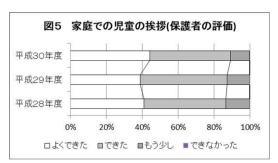
来客への挨拶は、全体としてみると昨年度と同様の結果になっています。地域の方をゲストティーチャーとしてお招きする機会の多い中学年の児童の「よくできた」と回答する児童の割合が高くなっています。顔見知りになることであいさつをすることへの抵抗がなくなっているように思います。高学年は「よくできた」の評価が低くなっていますが、あいさつ運動などの普段の啓発活動に、熱心に取り組んでいます。 (図4)

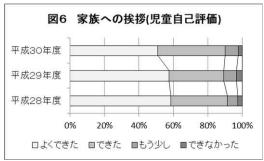
#### 【保護者・教職員のアンケートの結果から】

家庭での挨拶についての保護者の評価は、昨年度より良い結果となっています。また、児童の自己評価についての経年変化(H28~H30の3年間の変化の様子)でも、「よくできた」「できた」という回答が昨年よりも増えてきています。ご家庭の声がけや様々な取組により、少しずつ児童の中にあいさつの習慣が身についてきているものと思われます。 (図5)(図6)

学年ごとの保護者の評価では、学年が上がるにつれて、「よくできた」が低くなる傾向が見られますが、6年生については良好な結果になっています。(図7)

保護者の方の自由記述を見ると、「朝起きたら『おはよう』学校に行くとき『行ってらっしゃい』帰宅後は『おかえり』などと親子の間でもあいさつを心掛け



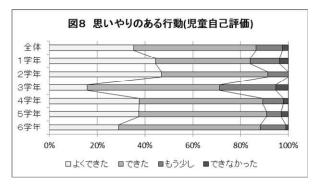


ている。」「子供からの挨拶が少ないので、親から根気強く声がけするよう続けている。」「近 所の方や友達の親御さんなどにこちらから挨拶をするようにしている。」など、保護者の方が率 先して挨拶をして子供たちの手本になっていることが分かります。

また、「『ありがとう』と感謝の気持ちを言葉で表すようにしている。」や「『ありがとう』 『ごめんなさい』がきちんと言えるようになってほしい。」など、挨拶と合わせて感謝の気持ち を育てることに力を入れている様子が伝わってくる記述がありました。

学校ではあいさつ運動などを通して、児童の意識を高める手立てを工夫してきましたが、まだまだ、積極的に元気よく挨拶をしている児童とあまりしていない児童の差があると感じています。 児童の意識の中に定着するまで、方法等を工夫しながら指導を続けていきたいと考えています。

# (2) 思いやりのある行動・言葉遣い 【児童・保護者・教職員のアンケート結果から】

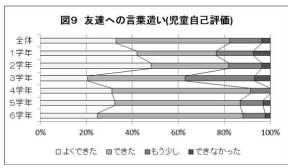


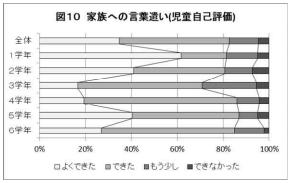
児童の自己評価では、全体の9割近くが思いやりのある行動が「よくできた」「できた」と回答しています。 (図8)

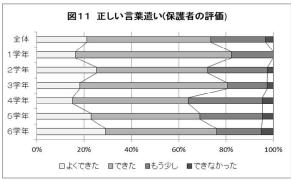
学年によってのばらつきは、発達段階により自 分を厳しく見ているためだと思われます。普段は お互いに思いやり良い関係を保つことができるの ですが、時に自己主張が強くなってしまい、友達 とトラブルになることがあります。そこを乗り越

えて、相手への思いを持てる子供たちに育てていきたいと考えています。

※質問内容  $1 \cdot 2$  年…「だれとでもなかよくすることができましたか。」  $3 \cdot 4$  年…「友だちに進んでやさしくすることができましたか。」  $5 \cdot 6$  年…「相手の気持ちを考え、協力しながら、友だちと活動することができましたか。」





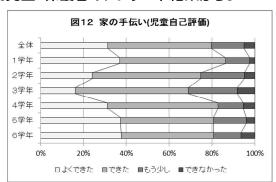


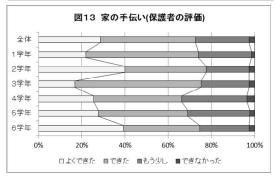
友達への言葉遣いについて,ばらつきが見られますが,学年が上がるにつれて「よくできた」と回答する割合が減っています。また,家庭での家族への言葉遣いについても友達に対する言葉遣いと同様の傾向が見られます。 (図9)(図10)

正しい言葉遣いについて,約7割強の保護者が「よくできた」「できた」と回答しています。(図11) 思いやりや言葉遣いについての自由記述では, 「親子でもあいさつや正しい言葉遣いについて気を付けている。」「自分がされて嫌なことはしないように教えている。」などのご意見をいただきました。

正しい言葉遣いについての教職員の評価では,「よくできた」「できた」と回答しているのは約5割にとどまっておりました。児童の自己評価とずれが大きくなっています。学校生活の中でも,自分では気付かないうちに,相手が傷つく言葉を発してしまう場面があり,トラブルになることがあります。子供達は何とも思っていないようでも,聞こえてきて不快な言葉を使っていることがあると思います。言葉遣いと思いやりのある行動には相関関係があります。言葉遣いは,マンガやテレビ,インターネットなど影響がとても出やすいものです。相手の気持ちを考えた正しい言葉遣いができるよう,これからもご協力をお願いいたします。

## (3) 家の手伝い 【児童・保護者のアンケート結果から】





全体としてみると、自己評価では約8割が、「よくできた」「できた」と回答しています。 (図12) 児童の自己評価と保護者の評価を比較すると「よくできた」「できた」の評価は、保護者の評価の方が少し低くなっています。 (図13)

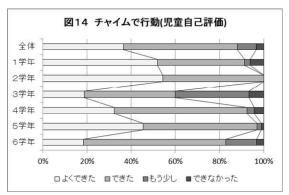
保護者の方の見方が厳しいのか子供たちの評価が甘いのかはわかりませんが なかなか時間がとれないご家庭もあるようです。「家族の一員としてみんなのために自分ができることを考えさせるようにしている。」というご家庭がありました。手伝いをして自分の役割を果たすことは、家族の一員としての自覚や自己有用感を高めることにつながります。できることで構いません。頑張ったときにはたくさんほめてあげてください。家族の一員として責任をもって行うことができるよう、引き続きお声がけください。

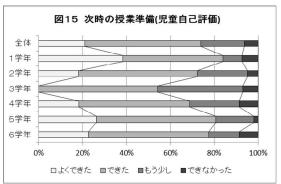
## 2 進んで学ぶ望ましい学習習慣の育成

# (1) チャイムで行動・次時の授業準備 【児童・教職員のアンケート結果から】

学年間のばらつきはあるものの、ほとんどの児童がチャイムに合わせて行動しています。休み時間にはたくさんの児童が校庭で外遊びをしていますが、予鈴が鳴るとほとんどの子が遊びをやめ、昇降口に走って行く姿が見られます。上学年が手本となり、さらに定着させていきたいと思います。 (図14) 次時の授業準備は、全体の約7割の児童が「できた」「よくできたと」回答しています。 (図15)

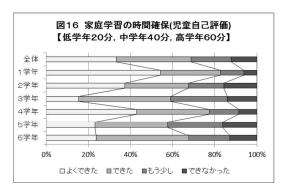
しかし、学年によっては約4割の児童が「もう少し」「できなかった」と回答しています。職員のアンケートでも十分できているとは言えない面が見られました。これからも各学級で徹底を図り、できていない児童には、個別に声掛けを行っていきたいと考えています。

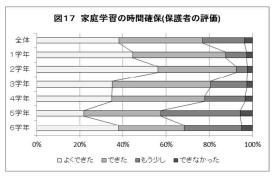




### (2) 家庭学習

#### 【児童・保護者・教職員のアンケート結果から】





家庭学習の目標時間の確保については、6割以上の児童が「よくできた」「できた」と回答しています。保護者の方の評価では、7割近くの方が、家庭学習の目標時間が達成できていると評価しています。学年によって達成状況が低い学年があることと、児童の自己評価と保護者の評価にずれがある点は今後検討していく必要があると感じています。 (図16) (図17)

学習に関する自由記述では「宿題の内容を聞いて、子供と一緒に学習の予定を立てるようにする。」「宿題を済ませてから遊ぶようにしている。」「宿題だけではなく自主的な学習をするよう声を掛けている。」などのご意見があり、各ご家庭で工夫しながら取り組ませていることが分かりました。親子で一緒に取り組むことで意欲が高まるという面もあります。これからもご協力をお願いいたします。

教職員のアンケートでも、宿題を中心に頑張っている

児童は増えているが、もう少ししっかりと取り組ませたい子との差が大きくなってきていると感じています。一定時間机に向かい集中する時間を作ることはとても大切です。低学年のうちからしっかりと取り組ませていきたいと思います。

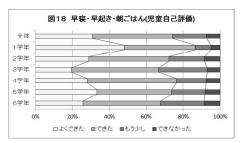
## (3) 早寝・早起き・朝ごはん

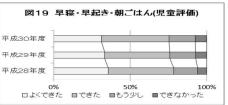
#### 【児童・保護者のアンケート結果から】

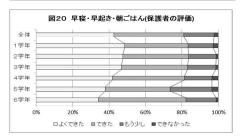
早寝・早起き・朝ごはんの習慣についての児童の自己評価を見ると、高学年で「よくできた」と回答している児童が少なくなる傾向です。保護者の評価と少しずれが見られました。 (図18) (図20)

平成28年度から平成30年度の変化を比較すると、年々「よくできた」が減り、「もう少し」と回答した割合が増えています。 (図19)

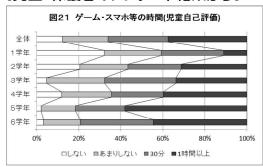
保健室に来室する児童の話を聞くと、前日夜遅くまで起きていて睡眠不足であったり、朝起きられずに朝食を食べずに登校していたりする場合が見られます。学校で落ち着いて学習するために、早寝・早起き、しっかり朝食を食べる習慣を付けさせたいものです。

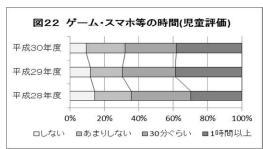


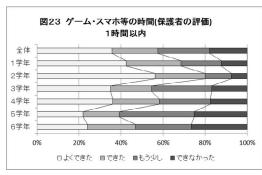




# (4) ゲーム・スマホ等の時間 【児童・保護者のアンケート結果から】







昨年と同じような傾向で、全体の約4割の児童が1日に1時間以上ゲームやスマホ、タブレットなどを使用している事が読み取れます。 (図21)

この3年間の経年変化を比較すると、ゲームやスマホを「しない」「あまりしない」と回答する児童の割合が減っており、1時間以上という児童が増えています。時間の記述の中には、2時間以上と回答した児童31人、4時間以上と答えている児童が10人以上おりました。帰宅してから就寝までの時間を考えると、かなりの時間ゲームやスマホ利用に時間を取られていることになります。

児童と保護者の意識を比較すると、保護者が考えているよりも実際の使用時間が長いような印象を受けます。

(図22) (図23)

多様なゲーム機が発売され、ゲーム機でも通信機能がついています。このゲーム通信の中で友達同士のトラブルになることも見受けられます。また、子供たちの間で動画再生サイトの視聴が流行しており、自分の部屋や布団の中で、際限なく視聴している様子がうかがえます。個人情報や写真の公開、不適切な内容の書き込みなどのトラブルのニュースが後を絶ちません。これからの子供たちにとって必要な機器ではありますが、ルールやマナーを教え、正しく使うよう導くことは大切です。ご家庭でもPC・スマートフォン・タブレット・ゲーム機など情

報端末の設定や利用状況についての約束をもう一度ご確認ください。

## 第3回学校評議員会・学校関係者委員会でのご意見

2月21日(木)に第3回学校評議員会・学校関係者委員会を開催し、今年度の取組と成果や 課題を報告いたしました。話合いの中で委員の皆様から貴重なご意見を頂きましたのでお知らせ いたします。ご意見を参考にしながら来年度の取組を検討してまいります。

### <思いやりの心をもち、進んであいさつできる児童の育成について>

- ・朝のあいさつ運動に参加している。1 年生が手前の方から元気よくあいさつをしてくれる。元 気にあいさつをしてくる子が増えたように思う。
- ・給食をこぼしてしてしまった学級があったとき、全校からの持ち寄りでまかなうことができた と聞いた。食べたい気持ちを我慢して提供した子もいると思う。お互いに助け合おうとする思 いやりの心はそういうところでも育つのだろうと思う。
- ・道路を横切ろうとする子供がいたので、車を止めて横断を促した際、あいさつをして横断する 子がいた。渡り終えた後にも振り返ってお辞儀をしていた。先生方の指導なのか親御さんの姿 を見てなのかは分からないが、とても感動した。スマイルクラブでも、年末に子供たちが感謝 の言葉を贈ってくれた。とてもうれしかった。
- ・顔を知っている人へのあいさつはできていると思う。あいさつの様子は、心のバロメーターだ と思う。声が小さいのは気持ちが表れていると思うので、きちんと受け止めたいと思う。
- ・市民センターを利用している子供のあいさつは良くなってきている。登下校の子供たちの言葉 遣いは少し乱暴なときもあるように思う。
- ・年齢によって、言葉遣いはできているように思う。3~4年生辺りが心の成長の境目になっているともう。大切に見てあげたいと思う。
- ・言葉遣いが気になる目上の人やお客さんにしっかり話せる子が少なくなっている気がする。低 学年は上手に話せる。学校に慣れてきた中学年辺りから悪い言葉になってきている。
- ・家族との豊かなコミュニケーションが大切だと思う。愛情不足を感じる子が多い。子供の話を 目を見て聞いてあげてほしい。
- ・あいさつのできる子, 自己表現できる子は評価されている。自己表現の苦手な子も評価してあ げてほしい。

#### <進んで学ぶ望ましい学習習慣の育成について>

- 「早寝・早起き・朝ご飯」は大切である。食べてこない子は午前中の活動はできているのだろうか。
- ・放課後に余裕がない時代なので、家庭での学習が大切になると思う。
- ・ゲームやスマートファンをしながらの子育てをする親のニュースを聞く。影響はないのだろうか。
- ・ゲームやスマートフォンなどは、電車の中では 100%近い大人がやっている。大人が変わらな

いといけない。ルール作りと実践が大切である。保護者が手本とならないと行けない。自分から改め、子供と一緒に考えてほしい。

- ・スマートフォンやゲームは大人もついついやってしまうし、夢中になってしまう。節度をもってできると良いのだが。
- ・30 代の大人は, IT メディアと一緒に育ってきている。大人の使い方を考えることが大切なのではと思う。
- ・SNS については、学校と保護者が協力して取り組まなければと思う。「スマホに子守をさせないで」というのはまさにそうだと思う。買い物に行くときに留守番をさせるため使わせてしまい、ユーチューブを見ている。ふと気がつけば夢中になっているので気をつけたい。
- ・画面の見過ぎによる視力の衰えやイヤホンを常用することでの聴力低下は大丈夫だろうか。心 配である。
- ・情報化社会に生きる子供たちである。使わないわけにはいかないので、節度を持って正しい使い方ができるように教えることが大切だと思う。

#### <子供たちの安心安全の確保に向けて>

・自転車のかごに、大きい額の現金をそのまま入れていた子を見かけた。どこから持ってきたのか、そのお金で何をしに行くのか、どのように声をかけるべきか迷ってしまった。知らない子を注意することに難しさを感じる。

以上のようなご意見をいただきました。あいさつについては、引き続き重点事項として取り組んでいきたいと思っています。学習習慣では、スマートホンやゲームの問題が多く出されました。これからの時代必要なものなので、正しい使い方ができるよう、また、自分で自制ができるように教えていくことが大切だと感じます。学校でも携帯安全教室などを続けていきますが、ご家庭でもルールを作り、きちんと守れるようお声がけください。